

# モンゴルICTビジネス・スタディツアー 概要・応募方法・安全情報

JICA モンゴル事務所

1. 本ツアー実施の背景・概要
2. 応募条件・方法
3. 安全情報

# 1. 本ツアー実施の背景・概要



## 基礎情報

人口：336万人  
面積：156.41万km<sup>2</sup>  
(日本の約4倍)

首都：UB市 (160万人)  
(全人口の約47%が集中)

国家公用語：モンゴル語



## 経済指標

GDP/人：4,300USD  
実質GDP成長率：▲4.6%  
財政収支 (GDP比)：▲6.7%  
対外債務：33.1 bilUSD  
経常収支赤字 (GDP比)：▲5.1%  
主要産業：鉱業、牧畜業、流通業、軽工業



## 政治体制

政体：共和制  
(大統領制と議院内閣制の併用)  
元首：オフナー・フレルスフ大統領 (人民党)  
(2021年6月～)  
首相：ロヴサンナムスライ・オヨーンエルデネ首相 (人民党)  
(2021年1月～)



## エネルギー

石油製品：ほぼ全量をロシアに依存。  
電力供給：約20%を海外依存。  
内中国から約7割、ロシアから約3割



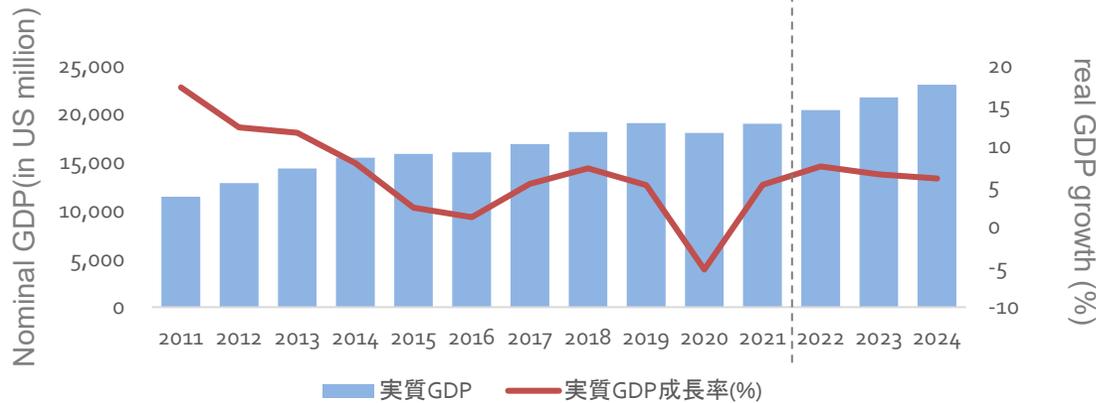
## 貿易

輸出：中国79.3%、ロシア1.1%  
輸入：中国31.6%、ロシア26.2%  
貿易総量：中国60%、ロシア11%  
外国直接投資額：登録企業数では中国企業が累計1位

- GDPは鉱業が牽引。ゆえに外的要因（特に鉱物資源の国際価格）の影響を受けやすい。
- 鉱業24%、農業が13%を占める。製造業は8%と基盤は脆弱。そのため一般消費財の多くを輸入依存している

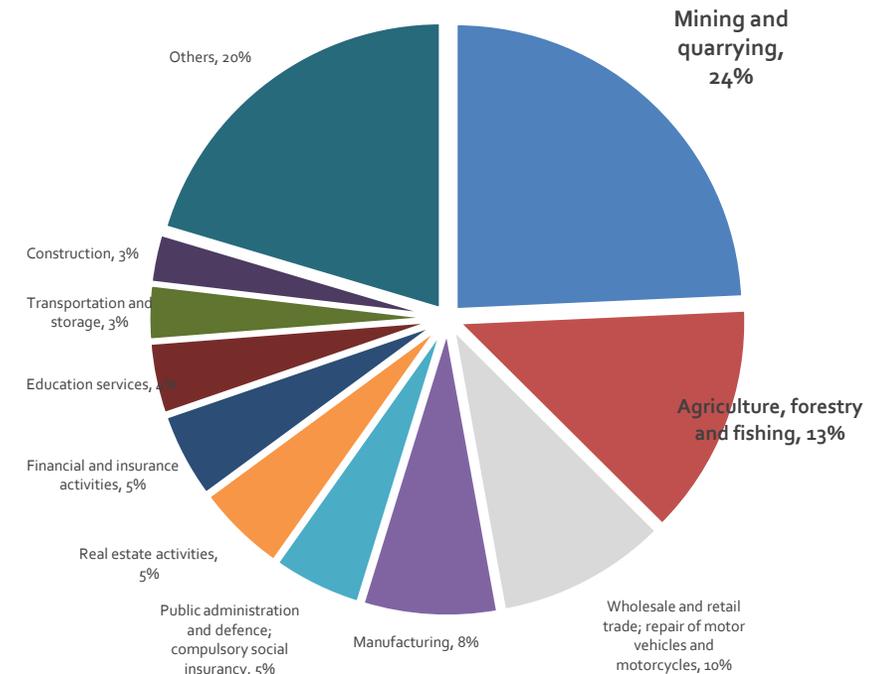
## GDP・GDP成長率の推移（実質）

出典：IMF World economic outlook（2021）



## 産業別GDP構成

出典：モンゴル統計局,2020



## 周辺他国との部門別GDP構成の比較

出典：Statistics Data by Economy, ADB, 2020

	ベトナム	カンボジア	キルギス	カザフスタン	モンゴル	タイ	日本	中国	オーストラリア
農業	16%	24%	15%	6%	13%	9%	1%	8%	2%
鉱業	6%	3%	2%	13%	24%	2%	0%	0%	11%
製造業	19%	18%	18%	14%	8%	25%	20%	31%	6%
建設業	7%	16%	9%	6%	3%	3%	5%	7%	8%
商業	13%	9%	17%	17%	10%	17%	13%	9%	8%

## 鉱業に次ぐ主力産業にすべく、ICT産業を強化対象産業と設置

### 政府による旗振り

- VISION2050  
「テクノロジーに基づいたイノベーションの創出を目指す」  
「ICT・デジタル産業を強化対象」
- 新再生戦略  
「科学技術に基づいたハイテック、ブロックチェーン、人工知能の成果を導入し、デジタル経済の動向にあった産業化を促進する。」

### モンゴル人材の有する能力

- 旧社会主義時代の教育を基盤とされる高い数学能力
- 海外留学/就労経験者が帰国する
- 実行力、推進力、挑戦

### Mongolia in the Digital Age

The Digital Readiness Assessment

### 経済環境

- 国際動向の影響を受けやすい鉱物産業への依存構造
- 小規模・独自言語市場のため、外資企業の参入が少ない環境

### 社会的環境

- 厳冬期が長く、産業は季節要因に左右される
- 人口/労働力が少ない環境（人口密度が世界で最も低い）
- 汚職/不正防止のためのデジタル活用

## 海外留学組をリーダーとするスタートアップ企業の台頭と豊富なICT人材

### 日本経済新聞

#### モンゴルにITスタートアップの芽 「帰国組」けん引

コラム(ビジネス) [+フォローする](#)

2019年10月14日 2:00 [有料会員限定]

モンゴルの首都ウランバートル市で、人工知能(AI)やフィンテックなどを担うスタートアップ企業が台頭している。担い手の中心は海外の大学に留学したり大手企業を経験したりした「帰国組」だ。小国ゆえの人脈の濃さを生かした人材育成で技術先進国入りをめざしている。現地で成長性と課題を探った。

フェイスブックやマイクロソフトなど世界の先頭を走るAI技術者が7月下旬、ウランバートル市に集まった。ディープラーニング(深層学習)に関するセミナーが開かれ、その講師などとして次々と登壇した。

フェイスブックAI研究所で働くモンゴル出身のサインバヤル氏も招かれた。2018年に米グーグルが発表して話題を集めた自然言語処理の論文で、その基となる論文の参照リストに名を連ねる技術者だ。AIを画像認識に活用するのは一般的だが、話し言葉といった自然言語を処理するのは難しいとされていた。

世界的な技術者である同氏を「サインバヤル君」と呼ぶのが、セミナーを開いた電通のAI現地子会社、電通データアーティストモンゴル(DDAM)のアグチバヤル氏だ。「サインバヤル君は小学校からの友人で、留学先も東京大学で同じなので講師をお願いした。『GAFA』に知り合いは少なくないよ」。

#### ■海外で経験積んだIT人材

モンゴルは国民の半分にあたる150万人がウランバートル市に住み、全国にある大学

#### IT人材の供給国開拓へ 狙いはモンゴル、ルーマニア

ネット・IT [+フォローする](#)

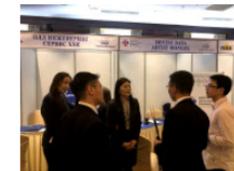
2019年4月23日 22:49 [有料会員限定]

国内のIT(情報技術)人材需給が逼迫する中、海外での採用活動が熱を帯びている。電通はモンゴルで人工知能(AI)人材の就職説明会を開き、人材派遣のヒューマンリソシア(東京・新宿)はルーマニアの理工系人材を日本に送り込む事業を本格化する。中国やインドで欧米勢との獲得競争が激化し、「フロンティア」に活路を見いだす。

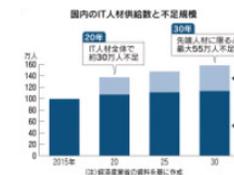
モンゴルの首都ウランバートルで9日、高等専門学校の学生向け就職説明会が初めて開かれた。同国には2014年、日本式の高専3校が設立され、今年5月に初めての卒業生約140人を送り出す。日本企業など29社が参加し、AIなどを専攻する学生が説明に聞き入っていた。

学生たちの関心を集めたのが、電通のAI子会社データアーティスト(東京・港)がウランバートルに設立した開発拠点だ。責任者のアグチバヤル・アマルサナー氏は、国際数学オリンピックの銅メダリスト。出身のモンゴル国立大学を筆頭に「トップ級人材を数百人単位で紹介できる」と、アマルサナー氏は胸を張る。

モンゴルの国際数学オリンピックにおける順位は10年の50位から18年には28位まで



モンゴルで開いた就職説明会では高専の生徒らが熱心に担当者の話を聞いていた(ウランバートル市)



## モンゴル政府による積極的なスタートアップ支援

### Government support for Startups

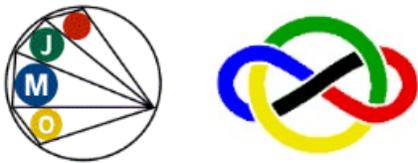
Mongolian government actively supports startups companies

- Hub Innovation Center**  
 To develop and train startup companies
 
- “Project Facilitation Program” by National Development Agency**  
 Promote and support projects, match with global investors
 
- Hold events of startups**  
 Competition to discover startup companies
 



## 数学をはじめとするレベルの高いSTEM教育と高い日本語能力人材

### 数学オリンピック における躍進



Rank	国
1	中国
2	ロシア
3	韓国
4	アメリカ
5	カナダ
<b>11</b>	<b>モンゴル</b>
15	シンガポール
25	日本

### 出身国別日本留学生が 多い国

2020年度 外国人留学生在籍状況調査結果



Rank	国	人数
1	中国	121,845人
2	ベトナム	62,233人
3	ネパール	24,002人
4	韓国	15,785人
5	台湾	7,088人
6	インドネシア	6,199人
7	スリランカ	5,238人
8	ミャンマー	4,211人
9	バングラデシュ	3,098人
<b>10</b>	<b>モンゴル</b>	<b>3,075人</b>

### 日本語学習者が 非常に多い国

国際交流基金2021年度「海外日本語教育機関調査」結果



	総人口	日本語 学習者数	含有率	Rank 人数	Rank 含有率
オーストラリア	23,717,000	415,348	1.75%	4	1
ニューカレドニア	271,000	3,426	1.26%	36	2
韓国	51,069,000	470,334	0.92%	3	3
台湾	22,673,000	143,632	0.63%	8	4
ニュージーランド	4,793,000	28,072	0.59%	13	5
<b>モンゴル</b>	<b>3,197,000</b>	<b>13,334</b>	<b>0.42%</b>	<b>20</b>	<b>6</b>
香港	7,337,000	27,665	0.38%	14	7
タイ	65,982,000	183,957	0.28%	5	8
シンガポール	4,044,000	10,837	0.27%	23	9
インドネシア	270,204,000	711,732	0.26%	2	10

アクセラレーションプログラム、調査、高等教育による支援を実施  
22年4月に新設されたデジタル開発・通信省からも、継続的な支援要請を受けている

## アクセラレーションプログラム 実施

**MONJA 1 In response to COVID**

**MONJA 2 For SDG's 2030**

**Deep Learning Competition (D-CON) 2022 in Mongolia**

## Startup ecosystem 調査

Baseline survey of the Mongolian start-up ecosystem

Final Report

Ulaanbaatar, Mongolia  
March 10, 2022

## 工学系高等教育支援

M-JEED 1000 ENGINEERS

工学系高等教育支援事業  
(円借款留学生事業/2014～)

日本式高専  
3校設置  
(2014～)

## 今後の方針

モンゴル国内のICT・デジタル産業及びスタートアップ企業を振興していく

## 調査目的

- ・ デジタル・通信・開発省の産業振興戦略策定に向けた提言方針をまとめる。
- ・ JICAの支援方針について検討する

## 調査内容

### モンゴル及び先進事例国の 情報収集・整理をする

モンゴルの現状・課題分析に加えて  
参考にすべき他国の情報についても収集し、  
それらを参考にしつつ、  
モンゴル国のICT・デジタル産業の戦略策定を支援する。

### 5つのパイロット事業を実施し 実践的な教訓を得る

情報収集に加えてパイロットプロジェクトを実施することで、  
各実施アプローチの成果及び教訓を整理し、  
また実践的な取り組みを通じて各関係者の役割分担を明確にし、  
支援プログラムへの提言の精度を高める

# 調査の構成

WG	WG設立・運営			
情報収集	調査	ICT産業	スタートアップ企業	オープンデータ活用
		産業全体情報分析（モンゴル/他国）		オープンデータに関する分析（モンゴル/他国）
人材教育環境・就労環境分析（モンゴル/他国）				
実践検証	対海外産業プロモーション	産業プロモーション戦略策定及び実施		
	PP	パイロット① 企業支援プログラム	パイロット③ Monja/アクセラレーター	パイロット⑤ パブリックデータ活用
		パイロット② 産学連携就労セミナー	パイロット④ D-comp/人材育成プログラム	



# D-Comp Mongolia 2022

ЕРӨНХИЙ ЗОХИОН  
БАЙГУУЛАГЧ

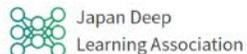


БОЛОВСРОЛ,  
ШИНЖЛЭХ УХААНЫ  
ЯАМ



МОНГОЛЫН  
ТЕХНОЛОГИЙН КОЛЛЕЖИЙН  
ҮНДЭСНИЙ ХОЛБОО

ХАМТРАН ЗОХИОН  
БАЙГУУЛАГЧ, ДЭМЖИГЧ



## DEEP LEARNING COMPETITION MONGOLIA 2022

ЭЦСИЙН ШАЛГАРУУЛАЛТ **2.24** 15:30 @ WHITE ROCK CENTER

Online Livestream in collaboration with Japan Festival in Mongolia

ШИЛДЭГ САНАА  
ГҮН СУРГАЛТ  
ИНЖЕНЕРЧЛЭЛ



БИЗНЕС  
ШИЙДЭЛ

**13 БАГ** ШАГНАЛЫН САН **10,000,000 ₮**

I БАЙР 6 САЯ II БАЙР 3 САЯ III БАЙР 1 САЯ

fb.com/dcompmon

ИВЭЭН ТЭТГЭГЧ

Tomorrow, Together



DENTSU  
DATA ARTIST  
MONGOL  
Data Driven Artistic Mongol



usp lab.



mobicom



# DX CUP Mongolia 2023


 БОЛОВСРОЛ,  
 ШИНЖЛЭХ УХААНЫ  
 ЯАМ


 МОНГОЛЫН  
 ТЕХНОЛОГИЙН КОЛЛЕЖИЙН  
 ҮНДЭСНИЙ ХОЛБОО

**MONGOLIAN**  
**INNO**  
**Week**

**DX CUP & Conference 2023**

2023.02.20-03.26	Тэмцээний бүртгэл,
2023.03.27-28	Шалгаруулалт,
2023.03.29-05.22	Хялбаршуулсан загвар болон Презентаци бэлдэх,
2023.05.23	Сүүлийн шатны шалгаруулалт

Хамтран зохион байгуулагч


 ШУТСаН  
 УЛСЫН АЖИЛТ ШИНЖЛЭХ УХААНЫ ЯАМ




**DX MONGOLIA**

## 2. 応募条件・方法

○日時：

**2023年6月5日（月）から6月11日（日）**（5月19～24日から日程変更）

○視察・面談先：

- ・ 現地ICT・デジタル企業やテック系企業、ICT関連施設の視察、ネットワーキング
- ・ 現地政府、経済団体（ICT関連）、ドナーとの意見交換
- ・ 最終裨益者やビジネスチャンス、ニーズの存在する現場の視察
- ・ 現地で操業する日本企業・海外企業との意見交換
- ・ JICAモンゴル事務所、モンゴル日本人材開発センターでのブリーフィング
- ・ モンゴルの教育機関（モンゴル国内の3高専や大学など）の施設見学

○参加予定企業数：最大20社程度

○言語・通訳：日本語・モンゴル語

## (1) JICAが負担する費用

-現地での宿泊費、ツアーのアテンド、通訳、モンゴル国内の移動にかかる経費、各種イベント参加費用（JICAにて手配・精算いたします。）

(2) 参加者にご負担いただく費用（上記(1)以外の費用、以下は主要な例）※尚、参加者ご自身でご手配頂きます。

-航空賃（ツアー開始日に間に合うように、出発到着地：日本国内⇔現地までの往復航空券をご自身で手配頂きます。）

-会議等に必要となる日本国内移動に係る費用（概要説明会、事前説明会はオンライン開催。ツアー後の報告会など物理的に集合する場合を想定。）

-居住地⇔出発到着地（日本国内の空港）の日本国内移動に係る費用

-旅券申請及び査証申請に必要な書類等（戸籍抄本、写真等）の取得経費

-海外旅行保険の加入経費

-現地での食費等

(1) 日本の企業等（本邦登記法人）であり、モンゴルを対象とした中小企業・SDGsビジネス支援事業への応募を含め、ビジネス展開を検討していること（別の法人へのコンサルティングを主目的としたコンサルタント等、モンゴルでの自らのビジネスを目的としない企業は対象外とする）。また、参加者は、応募企業の経営者の方、或いは経営幹部の方であることを条件とする。

(2) 日本の自治体及び関連団体、大学・高専などの教育機関、金融機関、メディアのうち、今後、中小企業・SDGビジネス支援事業を含む、JICA事業との更なる連携促進を検討する団体・組織自治体及び関連団体、大学・高専などの教育機関、金融機関、メディアの方

(3) (1) または (2) の応募条件に加え、以下リンク先の中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査／ビジネス化実証事業」 応募・実施条件等及び募集要項に係る同意書の10. に定義する反社会的勢力に合致しない企業・団体であることを本ツアーへの参加条件とする。

[https://www.jica.go.jp/chotatsu/sdg\\_bncs\\_bvs/2022/glkrjk0000006n31-att/y1\\_douisho2022.pdf](https://www.jica.go.jp/chotatsu/sdg_bncs_bvs/2022/glkrjk0000006n31-att/y1_douisho2022.pdf)

(4) 帰国後、JICA や業界団体、地元経済団体が開催する国内セミナー等で、モンゴル ICT人材、企業や日本企業との連携の可能性について情報発信できること。

- (5) 渡航前事前説明会及び現地視察の全行程に参加可能であること。
- (6) モンゴルの事情（道路状況や衛生環境等）を勘案した上で、全行程に参加可能な健康状態であること。
- (7) プログラム参加の意欲・熱意・協調性があること。
- (8) ツアー参加に際して海外旅行保険に加入頂くこと。
- (9) 参加費用の趣旨をご理解の上で、費用のご負担と、渡航に係るご準備をご自身で手配頂けること。

※ツアーにはJICA事務所員、通訳が同行いたしますので英語力は必須では有りません



## 参加企業・団体の条件

○応募方法（原則一社から一名の応募とさせていただきます）：

- ・ JICAホームページの参加申込フォームより必要事項をご記入ください。  
（応募期限：**2023年3月31日（金）18時（日本時間）**まで）

- ・ モンゴルへのビジネス進出に関心をお持ちの企業様/中小企業・SDGsビジネス支援事業の応募を検討されている企業様向け参加申し込みフォーム

<https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=Qvyp64hVMU2KTm4b950xwGIQ-Jzzv9RLpzYeiHiqqfVUNVQzREs2SjA2VEU1RVJBVUVBu0k5R1BZVC4u>

- ・ 自治体及び関連団体、大学・高専などの教育機関、金融機関、メディア向け参加申し込みフォーム

<https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=Qvyp64hVMU2KTm4b950xwGIQ->

[Jzzv9RLpzYeiHiqqfVUQ1M1UUszM0NMM1pIT1JCMIRZWDg1QkVEQy4u&web=1&wdLOR=cAE7847A6-57D1-403C-9099-206E7D1E3B71](https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=Qvyp64hVMU2KTm4b950xwGIQ-Jzzv9RLpzYeiHiqqfVUQ1M1UUszM0NMM1pIT1JCMIRZWDg1QkVEQy4u&web=1&wdLOR=cAE7847A6-57D1-403C-9099-206E7D1E3B71)

○応募が定員枠を超えた場合には、JICA側で選考をさせていただくことがありますので、予めご了承くださいますようお願い致します。選考結果は2023年4月7日頃を目途にご応募いただいた方にお知らせいたします。

○選考は応募書類記載していただく下記の内容を基に行います。

- ① 会社概要
- ② モンゴルへの渡航歴
- ③ 本スタディツアーに期待すること（希望する視察先・得たい情報など）
- ④ 本スタディツアー参加者情報
- ⑤ （企業の場合）海外での事業あるいはオフショア開発の実績
- ⑥ （企業の場合）モンゴルで想定しているビジネス内容、特に中小企業・SDGs ビジネス支援事業への応募を検討しているビジネス
- ⑦ （自治体及び関連団体、大学・高専などの教育機関、金融機関、メディアの場合）今後、中小企業・SDGビジネス支援事業を含む、JICA事業との更なる連携促進に向けて検討していること

- 3月上旬頃：参加者募集開始
- 3月17日（金）：本スタディツアーに関する概要説明会（オンライン）
- 3月31日（金）：応募締切
- 4月7日（金）：参加企業等決定
- 4月上旬～中旬頃：スタディツアーに向けた手続き及び事前説明会
- **6月5日（月）～6月11日（日）視察団派遣**（5月19～24日から日程変更）
- 6月30日（金）：視察報告書提出締切
- 7月上旬：視察報告会（オンラインもしくはハイブリット形式を想定）

# 本スタディツアーのスケジュール

日	行程	備考
6月5日 (月)	・移動 (日本国内→ウランバートル市)	現地 (モンゴル) 集合
6月6日 (火)	・モンゴル日本人材開発センター ・JICAモンゴル事務所 ・モンゴル国デジタル・通信・開発省、教育科学省等の幹部への表敬	
6月7日 (水)	・ICT・デジタル分野にかかる企業、政府関連機関の視察	
6月8日 (木)	・モンゴル政府主催「イノベーションウィーク」への参加・登壇 ・ICT・デジタル分野にかかる教育機関の視察	
6月9日 (金)	・パターン①：モンゴル日本人材開発センターにて就職説明会の実施  ・パターン②：ICT・デジタル分野にかかる企業、政府関連機関の視察	
6月10日 (土)	・モンゴル政府主催「ICTEXPO」への参加・登壇 ・ICT・デジタル関連企業、団体とのネットワーキング	
6月11日 (日)	・移動 (ウランバートル市→日本国内)	現地 (モンゴル) 解散

### (1) 本ツアーの位置づけについて

本ツアーは、上述のとおり中小企業・SDGsビジネス支援事業への応募促進等を目的の一つとしたものですが、本ツアーへの参加自体が同支援事業の応募審査にあたっての加点要素となることはありません。

### (2) 個人情報の扱いについて

- 応募書類に含まれる個人情報等は、本ツアーの審査、派遣決定後の宿泊手配にのみ使用します。
- 応募書類は、JICAが本ツアーを運営する以外の目的では一切使用いたしません。

### **3. 安全情報**

## (1) モンゴル入国時

- 現在、ワクチンの接種有無に関わらず、モンゴルへの入国制限はありません。ただし、モンゴル国内では感染防止対策がほとんど実施されていませんが、現地の雰囲気や飲まれることなく、しっかりと感染防止対策を講じてください。
- 渡航に際して、解熱剤、体温計及びパルスオキシメーターを持参することをお勧めします。
- 持病の関係で薬を服用中の方は滞在期間 + 2週間分以上の薬を持参してください。

【参考URL】モンゴルへ渡航される方で（2022年7月4日付）

[https://www.mn.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/20220704covid-19.html](https://www.mn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20220704covid-19.html)

# 新型コロナウイルスにかかる出入国時の措置

## ○新型コロナウイルスにかかる出入国時の措置

### (2) 日本入国時

有効なワクチン接種証明書	入国時の検疫措置			
	出国前検査証明書	質問票	到着時検査	入国後待機
あり	不要	必要	なし	なし
なし	必要			

【参考URL】 水際対策 | 厚生労働省 | 日本政府 (mhlw.go.jp)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00209.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html)

## ○主なリスク

(1) 窃盗（スリ・置き引き）

(2) ひったくり・暴行

(3) 交通事故・冬期の路上転倒

(4) デモ・抗議行動